

記述問題（公民）

AとBの文章を読み，問1～問3に答えなさい。Aは，イギリスの政治思想家・思想史家アイザイア・バーリン（Isaiah Berlin, 1909–1997）が1987年に行った講演「理想の追求」を解説しながら，文化相対主義と文化多元主義について著者の青木が自分の考えを述べたものである（鉤括弧内はバーリンからの引用）。Bは，日本社会における外国人住民との共生のあり方について，著者の塩原が自分の考えを述べたものである。

A

著作権の関係で表示できません。

（青木保『多文化世界』，岩波新書，2003年，100–111頁からの抜粋。一部表記を改めた。）

B

著作権の関係で表示できません。

（塩原良和，『共に生きる』，弘文堂，2012年，144–149頁から抜粋。表記を一部改めた）

設問

- 問1 文化相対主義と文化多元主義の共通点と相違について，Aの著者の見解を200字以内で要約せよ。
- 問2 「分かりあい」としての共生と「変わりあい」としての共生の違いを，Bの著者の説明に即して300字以内で要約せよ。
- 問3 Bの著者が最後の注で述べている通り，「変わりあい」においてまず変わらなければならないのはマジョリティであり，マイノリティに対して「変われ」と強制する権利はない。AとBの両方を参考にしながら，こうした主張の理由を，Bの著者に代わって600字以内で説明せよ。